

## 評価結果反映報告書

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの2018年度評価結果の主要な反映状況

評価項目	2018年度評価における 主な指摘事項	2019年度の業務運営等への反映状況
全体評価	<p>技術支援の提供に際しては、より一層の利用サービスの向上が図られるよう、利用手続きの電子化の推進などの改善に引き続き取り組むことが望まれる。</p>	<p>都産技研ウェブサイトを活用した機器利用可能情報の提供の継続</p> <p>(1) ウェブサイトで計379機種について予約状況の提供を継続</p> <p>(2) 機器利用のオンライン予約の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温湿度試験機器等28台を継続</li> <li>・ 登録人数:505名、予約件数:131件</li> </ul> <p>総合支援窓口サービス機能の充実</p> <p>都産技研ウェブサイトからの技術相談について、相談内容入力フォームの入力項目を見直し、お客様へのワンストップサービス実施に向けた仕組みを改良。ご利用カード番号をお持ちの方（リピーターのお客様）か、利用希望サービスが決まっているか等をあらかじめ確認するよう変更することで、より適切な部署・研究員への取次を実施</p> <p>技術支援ご利用ガイドのリニューアル</p> <p>新規ご利用のお客様に向け、技術経営支援室において発行するパンフレット「都産技研技術相談ご利用ガイド」の内容を刷新。技術相談等、支援メニューの説明の他、よく頂くご質問等に対するQ&amp;Aを掲載することによりご利用方法説明の平準化、迅速化に寄与</p>

		<p>都産技研活用事例集の継続発行</p> <p>都産技研各種事業に対するお客様の理解度向上のため、都産技研活用事例集を継続して発行。2019年度はお客様インタビュー2社を含む計22社の事例を掲載し、お客様の課題解決に至った事例を都産技研事業とともに紹介。インタビュー事例については動画を作成しYouTubeに公開することで、お客様の直感的な都産技研事業・活用例の理解に貢献</p>
<p>全体評価</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に対応する柔軟な組織運営を継続していくことを期待する。また、SDGsに関する現在の取組や将来の計画を整理し、広報活動に積極的に活用することが望まれる。</p>	<p>SDGsに関連する研究開発および技術支援の実施</p> <p>(1)地球にやさしい素材を用いて、デザイン性や使いやすさ等の付加価値を考慮した食器の製品化を目的に、特定運営費交付金事業において公募型共同研究を2件実施</p> <p>(2)発泡スチロールに代わる断熱・緩衝・梱包材として、都内中小企業が開発した「紙パウダー」・「でんぷん」を主原料とし、合成樹脂の使用量を低減した環境にやさしい新材料について、材料中に含まれる合成樹脂成分の量の測定方法を提案・実施することで、プラスチック代替材料の開発を支援</p> <p>(3)特定運営費交付金事業において、障害者スポーツの競技力向上や障害者のスポーツへの参加拡大を目的に、競技用の「車いす」および「義足」をテーマとした公募型の2件の共同研究を実施。また、障害者スポーツの普及に貢献する技術開発と実用化に向けた基盤研究を2件実施し、さわれるスポーツ観戦システムや子ども用歩行器を開発</p> <p>(4)ヘルスケア産業支援事業を新規に開始し、動物実験代替法に関する研究を3件実施</p>

	<p>SDGsに関する広報活動</p> <p>(1)「第23回いたばし産業見本市」においてヘルスケア産業支援事業およびプラスチック代替品の開発・普及プロジェクトの紹介を実施</p> <p>(2)プラスチック代替品開発事業、障害者スポーツ支援、ヘルスケア産業支援事業について計6件のプレス発表を実施</p>
--	--